Express5800/MW500f

はじめにお読みください

Empowered by Innovation NEC

Startup Guide

スタートアップガイド

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

856-127241-362-00　2008年6月　初版

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意　-必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、アース付のコンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。

- 本体
- 電源コード
- 電源中継ケーブル ×1
- フロントベゼル
- セキュリティキー（フロントベゼルに貼り付けられています）
- Yケーブル(KB/MS用)
- 内蔵デバイス固定用ネジ×4
- ソフトウェアパッケージ一式（バックアップDVD-ROM*1を含む）
- EXPRESS BUILDER DVD*2
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1)（DianaScopeのライセンス）
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)

重要 添付のバックアップDVD-ROMおよびフロッピーディスクは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

*1 バックアップDVD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

*2 EXPRESSBUILDER DVDの内容についてはEXPRESSBUILDER内の添付品一覧を参照してください。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップDVD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

<バックアップDVD-ROM>:/nec/doc/manual.html

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな？」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Reader日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます(http://nec8.com/　→　［サポート情報］をクリックしてください)。

3 ラックを設置する

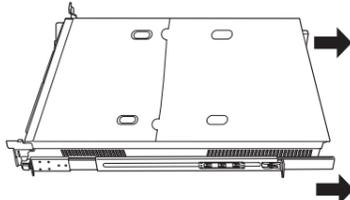
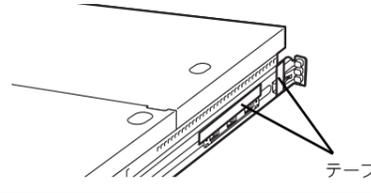
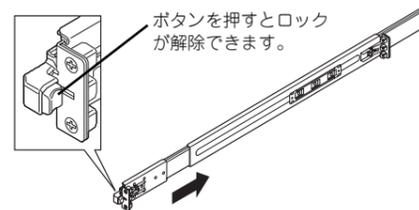
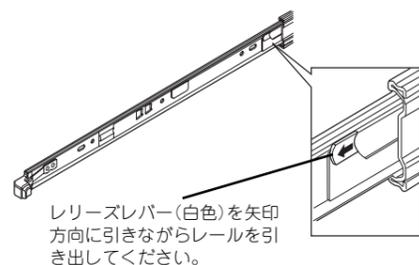
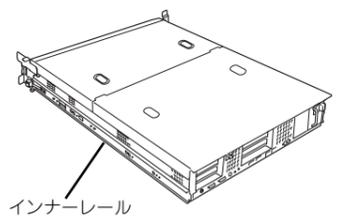
本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要 ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

4 本体を取り付ける

本体をラックに取り付けます。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

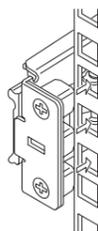
重要 ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

1 本体左右に取り付けられているスライド式のレールを取り外す。

装置運搬時の脱落防止のために、工場出荷時にスライドレールは左右ともに背面側と側面がテープで固定されています。ラックへ取り付ける前に、テープをはがしてください。

2 本体前面にあるロック解除ボタンを押しながら、レールを持ってゆっくりと装置後方へスライドさせる。

しばらくすると、「カチッ」とロックされます。本体側面にあるレリーズレバー(白色)を矢印の方向に引き、ロックを解除しながら本体から取り外す。

レールアセンブリを取り外すと、本体にはネジで固定されたインナーレールのみが付いた状態となります。

取り外したレールアセンブリは、レバーを押しながら矢印方向へ動かし、もとに戻してください。

レールアセンブリは、取り外したインナーレールに再度取り付けます。どちら側のインナーレールから取り外したものかわかるように印を付けるなどして区別してください。複数の本装置を設置する際もどの装置のどちら側のインナーレールから取り外したものがわかるように区別してください。

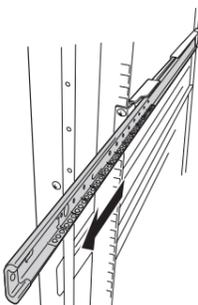
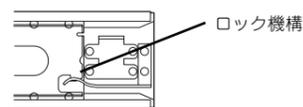
レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

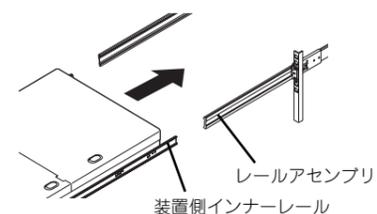
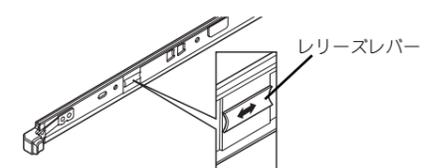
3 レールアセンブリの四角い突起を、19インチラックの角穴に入れて取り付ける。

この時に「カチッ」と音がして、ロックされたことを確認してください。

上図は右側(前面)を示していますが、右側(背面)、左側(前面/背面)も同様に取り付けてください。もう一方のレールを取り付ける時、すでに取り付けているレールアセンブリと同じ高さに取り付けることを確認してください。

前後に多少のガタツキがありますが、製品に支障はありません。

レールアセンブリが確実にロックされて脱落しないことを確認してください。

4 左右のレールアセンブリのスライドレールをロックされるまで引き出す。

ロック機構が確実にロックしている事を確認してください。

5 2人以上で本装置をしっかりと持ってラックへ取り付ける。

本装置側面のインナーレールをラックに取り付けたレールアセンブリに確実に差し込んでからゆっくりと静かに押し込みます。

途中で本装置がロックされたら、側面にあるレリーズレバー(青色のレバーが左右にあります)を手前または、奥に押しながらゆっくりと押し込みます。

完全に装置を押し込むと装置前面のロックがかかり装置を固定できます。

レバーやレールで指を挟まないよう十分注意してください。

差し込む時、インナーレールの両側をまっすぐ挿入してください。

設置時は、左右のツマミを持ってゆっくりと確認しながら取り付けてください。

初めての取り付けでは各機構部品がなじんでいないため押し込むときに強い摩擦を感じることがありますが、製品に支障はありません。

差し込みが不完全ですと、片側のレールが押し込み時に途中で止まることがあります。その場合一度装置をロックがかかるまで完全に手前に引き出してください。左右のロックが完全にかかったのを確認してから、その後左右のロックを解除させて再び装置を押し込んでください。

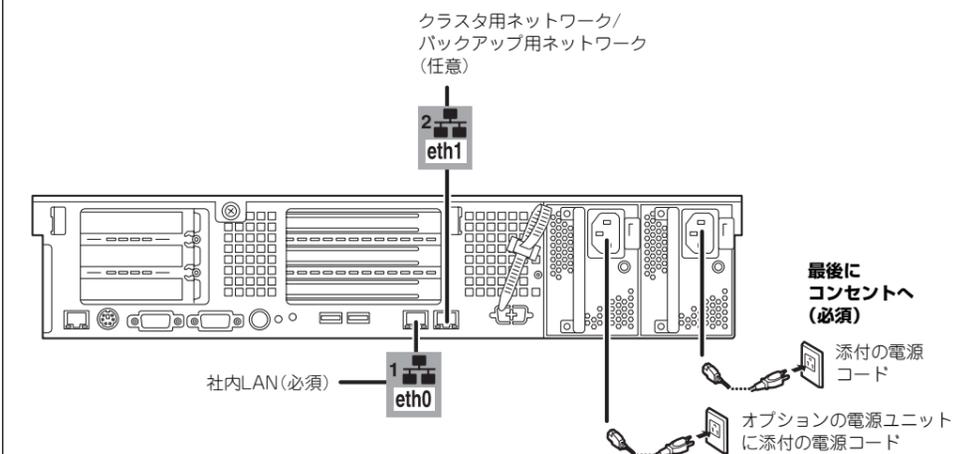
6 本装置を何度かラックから引き出したり、押し込んだりしてスライドの動作に問題がないことを確認する。

ラック内の他装置と隣接する位置に本装置を取り付ける際は、他装置と本装置の筐体が干渉していないことを確認してください。もし干渉している場合は、他装置と干渉しないよう調整してレールアセンブリを取り付け直してください。

スライドレール部分の動作を確認してください。スライドレールがラックのフレームに当たり、引き出せない場合は、スライドレールを取り付け直してください。

以上で完了です。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要 システムが割り振るLANポート番号(eth n・n=数字)は次のとおりです。

オプションのNICなし	オプションのNICあり
– eth0: 1	– eth0: 1
– eth1: 2	– eth1: 2
	– eth2: オプションのNIC

また、デフォルトで通信用インタフェースとして割り当てられているポートは、eth0です(設定は初期セットアップの完了後、Management Consoleから変更することができます)。

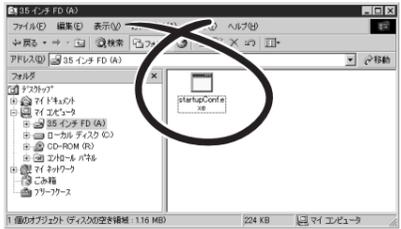
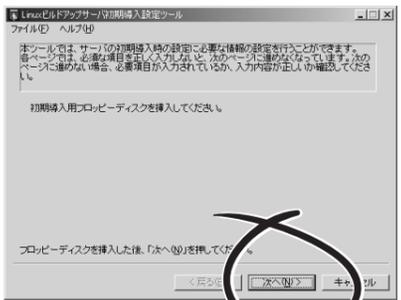
引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

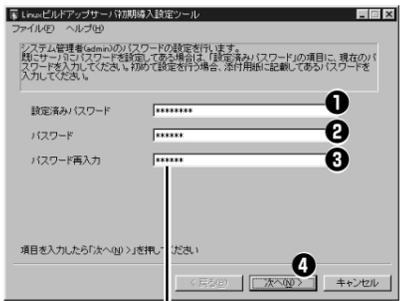
6 インストール/初期導入設定用ディスクを作成する

本装置を、Mailサーバーとして運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindowsシステム(Windows 2000以降)が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章「インストール/初期導入設定用ディスクの作成」を参照してください。

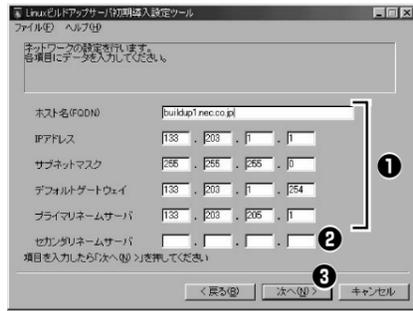
1. Windowsマシンを起動する。
2. フロッピーディスクドライブに添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をセットする。

   インストール/初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。
3. エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(StartupConf.exe)」を起動する。

   初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。

4. [次へ]をクリックする。

5. 管理PCから本装置にログインする際の管理者(admin)パスワードを設定する。

   ここで入力したパスワードは、管理者(admin)でログインする場合に必要となります。パスワードを忘れたり、不正に利用されたりしないように、パスワードの管理は厳重に行ってください。
   - ❶ 本装置に添付の「rootパスワード」に記載されたパスワードを入力する。
   - ❷ パスワードを入力する。
   - ❸ ❷で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。
   - ❹ [次へ]をクリックして次に進む。

パスワードは画面に表示されない(「＊」で表示される)ため、タイプミスのないように注意する

6. ネットワークの設定をする。

   ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。
   - ❶ タイプミスのないように各値を入力する。
   - ❷ セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。
   - ❸ [次へ]をクリックして次に進む。

7. ネットワークの設定をして[次へ]をクリックする。

   ここで設定する情報はLANポート2(システムからはeth1ポートとして扱われます)に対するものです。フェイルオーバクラスタ構成で運用する場合のみ設定します。

8. 実ドメインのグループを設定し、[次へ]をクリックして次に進む。

1文字目は英数字、2文字目以降は英数字とハイフンからなる最大15文字の全小文字

<指定できない文字列>

adm、admin、apache、bin、canna、daemon、dip、disk、floppy、fml、ftp、games、gopher、kmem、ldap、lock、lp、mail、mailnull、man、mem、named、news、nfsnobody、nobody、nscd、ntp、pcap、root、rpc、rpcuser、rpm、slocate、smb、smbguest、smmsp、sshd、sys、tty、users、utmp、uucp、vcsa、wbmc、webalizer、wheel、wnn、xfs

9. 本装置の動作モードを指定する。
   - ❶ 通常の状態で運用する場合。
   - ❷ ロードバランスクラスタ構成で運用する場合。
   - ❸ フェイルオーバクラスタ構成で運用する場合。
   - ❹ 指定したら、[次へ]をクリックして次に進む。

10. メール配送の設定をする。
    - ❶ DNSで配送する場合。
    - ❷ スマートホストを使用する場合。
    - ❸ 直接配送するドメイン名(任意)。
    - ❹ 指定したら、[次へ]をクリックして次に進む。

<スマートホストとは？>

ファイアウォールが設置されたイントラネット内にメールサーバを設置する場合などは、すべてのメールを特定のメールサーバを介して配送する必要があります。そのサーバのことを「スマートホスト」と呼びます。スマートホストを使用する場合でも、ファイアウォールの内側で、イントラネット用のDNSが設置されており、DNSによる配送が可能な場合は、「直接配送するドメイン名」にイントラネットのドメイン名を入力することでファイアウォール内に関しては、スマートホストを介さずに配送することができます。

なお、ファイアウォールのDMZ(非武装地帯)上のメールサーバのように、特定のドメインに対する配送ホストをDNSを使用せずに静的に決定する必要がある場合は、セットアップ完了後、Management Consoleを使用し、メールサーバの設定の「静的配送の設定」により設定します。

すべての入力が完了したら、設定した内容がインストール/初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。セットアップの完了後も大切に保管してください。

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

1. 本装置のLANポート1コネクタ(eth0)とLANポート2コネクタ(eth1)がLANケーブルによりネットワーク環境として使用するHUBに接続されていることを確認する。
2. ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。
3. 本体の電源をONにする。

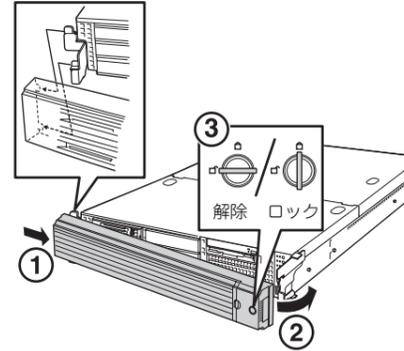
   セットアップを開始します。5〜6分ほどで完了します。

   セットアップに失敗した場合は、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。
4. フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。
5. Windowsの「メモ帳」などを使って、インストール/初期導入設定用ディスク内のログファイル(logging.txt)を開く。

   ログファイルに「Info: completed.」と出力されていたらセットアップは正常に完了しています。

   それ以外の出力(ログ)がある場合は、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」または7章を参照してトラブルの解決を試みてください。それでも解決できない場合は保守サービス会社にお問い合わせください。
6. 添付のフロントベゼルを取り付けてセキュリティキーでロックする。

   セキュリティキーは大切に保管してください。

ツメをフレームに引っかける

8 システムにログインし、各種設定をする

クライアントPCのWebブラウザからネットワークを介してシステムにログインします。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

1. クライアントPC上でWebブラウザ(Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6.0 SP2(日本語版)<推奨>)を起動する。
2. Webブラウザの設定を確認する。
   - プロキシを経由させない
   - キャッシュ機能を使用しない
3. 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
4. [システム管理者ログイン]をクリックする。
5. ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

   管理者用のトップページが表示されます。

Webブラウザに表示された画面からさまざまなシステム設定ができます。

詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

また、下図のようなクラスタ構成を構築する場合は、3章を参照しながらManagement Consoleからセットアップをしてください(フェイルオーバクラスタ構成時には、別売のExpress5800/MW500f 二重化構成構築キットが必要です)。

ロードバランスクラスタ構成　　**フェイルオーバクラスタ構成**

9 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップDVD-ROMにあるESMPRO/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップDVD-ROM>:/nec/doc/500/esmpro.sa/users_v42.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

10 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER DVD」に含まれています。管理コンピュータの光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER DVD」をセットすると表示される「オートランで起動するメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの5章を参照してください。

以上で完了です。